

リハビリテーション部

1. スタッフ構成(2025年3月時点)

○椿 崇仁(整形外科主任部長、救命救急センター副センター長、リハビリテーション部長、リハビリテーション科主任部長、地域医療連携室副室長)

<理学療法士>

○森川 明(技師長)、片木 祐志(副技師長)、木口 大輔(担当係長)、都築 宏正、増田 一基、天野 貴裕、藤田 典道、井上 瑞貴、渡部 遥子、青木 卓也、武智 悠二、大柴 夏実、清水 麻美、黒川 絢帆、岡田 朱莉、仙波 由梨、小西 優治、樋口 樹里、二宮 美里、松本 由希子、大野 聖佳、宮崎 諒也

<作業療法士>

○林 美里、佐竹 敬太、小島 裕希子、石山 健太、玉井 誠也、上甲 早苗

<言語聴覚士>

○三瀬 和人、鈴木 万葉、桑原 百加、藤森 撰、福島 かおり

2. 認定資格取得(2025年3月時点)

資格名	資格取得者
日本理学療法士協会呼吸理学療法専門理学療法士	木口大輔
日本理学療法士協会運動器認定理学療法士	松本由希子
日本理学療法士協会脊髄障害認定理学療法士	木口大輔、藤田典道、青木卓也、武智悠二
日本理学療法士協会呼吸認定理学療法士	都築宏正
日本理学療法士協会代謝認定理学療法士	天野貴裕、武智悠二
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設教員等講習会修了	森川明
日本理学療法士協会臨床実習指導者講習会修了	木口大輔、都築宏正、増田一基、天野貴裕、藤田典道、井上瑞貴、渡部遥子、青木卓也、武智悠二、仙波由梨、二宮美里、松本由希子
日本作業療法士協会臨床実習指導者講習会修了	林美里、小島裕希子、佐竹敬太、玉井誠也、石山健太、上甲早苗
日本言語聴覚士協会臨床実習指導者講習会修了	三瀬和人
日本言語聴覚士協会生涯学習プログラム基礎講座講師	藤森撰、三瀬和人
日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション指導士	片木祐志、天野貴裕、青木卓也
日本理学療法士協会介護予防推進リーダー	木口大輔、天野貴裕、藤田典道、井上瑞貴、渡部遥子、青木卓也
日本理学療法士協会地域包括ケア推進リーダー	木口大輔、天野貴裕、藤田典道、井上瑞貴、青木卓也
日本理学療法士協会フレイル対策推進マネジャー	木口大輔、天野貴裕、青木卓也
日本理学療法士協会協会指定管理者(上級)	森川明、木口大輔、天野貴裕、藤田典道、青木卓也

日本作業療法士協会認定作業療法士	佐竹敬太
日本言語聴覚士協会認定言語聴覚士(失語・高次脳機能障害領域)	三瀬和人
日本言語聴覚士協会認定言語聴覚士(摂食嚥下障害領域)	三瀬和人
日本胸部外科学会・日本呼吸器学会・日本麻酔科学会 3 学会合同呼吸療法認定士	木口大輔、都築宏正、天野貴裕、井上瑞貴、松本由希子、大野聖佳、林美里、石山健太
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会呼吸ケア指導士	木口大輔、都築宏正、天野貴裕、三瀬和人
日本糖尿病療養指導士認定機構日本糖尿病療養指導士	天野貴裕
日本腎臓リハビリテーション学会腎臓リハビリテーション指導士	天野貴裕
日本健康運動指導士会健康運動指導士	天野貴裕
日本パラスポーツ協会公認中級パラスポーツ指導員	木口大輔、藤田典道、渡部遥子、青木卓也
日本栄養治療学会 NST 専門療法士	三瀬和人
日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	三瀬和人、鈴木万葉
日本循環器学会心不全療養指導士	黒川絢帆
日本認知症ケア学会認定認知症ケア専門士	天野貴裕、小島裕希子、三瀬和人
日本科学技術連盟 QC サークル上級指導士	三瀬和人
愛媛県社会福祉協議会介護支援専門員	三瀬和人
文部科学省・厚生労働省公認心理師	林美里、三瀬和人、鈴木万葉
愛媛相談支援協会障がい者相談支援専門員	小島裕希子

3. 運営方針

チーム医療を推進する精神のもと、患者さんやご家族に優しく接し、患者さんの機能低下・能力低下・社会的不利に対して全人的医療に基づいたリハビリテーションの提供に最大限の努力を注ぎます。質の高いリハビリテーション医療を提供すべく、自らの知識・技術を日々向上させるよう研鑽に努めています。また、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士のリハビリ専門職種が急性期の幅広い疾患に対応するため、疾患別の専門リハビリチームを編成し、高度でより専門的なリハビリテーションが行えるシステムを構成しています。

4. 実績

<対象疾患>

- 脳血管疾患リハ:脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳外傷、脳炎等、脊髄損傷、脊髄腫瘍等、多発性神経炎、多発性硬化症、パーキンソン病等
- 運動器疾患リハ:上肢・下肢・体幹の外傷、骨折、切断、複合損傷等、関節の変性、炎症性疾患、熱傷等
- 呼吸器疾患リハ:COPD、間質性肺炎、肺結核後遺症、慢性気管支炎、肺炎、無気肺、胸腹部外科手術後等

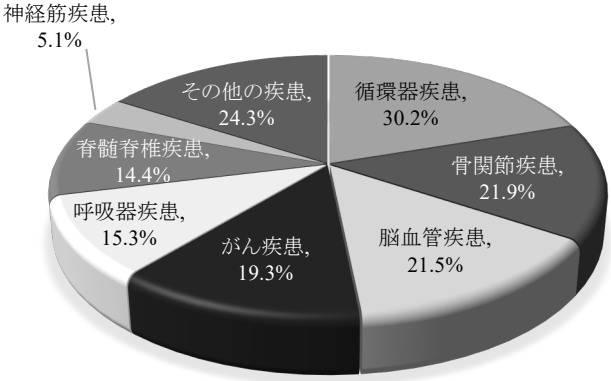
- (4) 心大血管疾患リハ:心不全、弁膜症、心筋梗塞、狭心症、大動脈解離、解離性大動脈瘤、開心・大血管手術後等
- (5) がんリハ:造血器腫瘍、肺がん、消化器がん、頭頸部がん、乳がん等

■ 疾患別リハビリ依頼患者数

	患者数
脳血管疾患	
脳梗塞	155
脳出血	67
くも膜下出血	54
頭部外傷	19
脳腫瘍	67
脳炎・髄膜炎	19
その他	155
神経筋疾患	
パーキンソン病	8
多巣性運動ニューロパチー	43
多発性硬化症	2
ギランバレー症候群	18
重症筋無力症	11
その他	46
脊髄脊椎疾患	
脊髄損傷	47
脊椎骨折	19
脊椎変性疾患	197
その他	96
骨関節疾患	
大腿骨頸部骨折	26
上肢骨折	70
下肢骨折(骨盤骨折含む)	105
多発骨折	23
関節変性疾患	173
切断	27
その他	122
呼吸器疾患	
肺炎	134
慢性閉塞性疾患	22
間質性肺炎	63
その他	163
循環器疾患	
虚血性心疾患	166
心不全	224
大動脈瘤	164
心臓弁膜症	87
その他	111
がん疾患	
血液がん	190
乳房がん	53
肺がん	99
消化器がん	72

頭頸部がん	9
その他	58
その他の疾患	605
合計	3,789

■ 疾患別リハビリ患者数の割合



■ 外来新患者数

	患者数
上肢障害	130
下肢障害	14
小児言語	8
呼吸障害	75
高次脳機能障害	10
その他	11
合計	248

■ リハビリテーション部依頼患者数

・ 4, 037名

当院では地域連携パスの計画管理病院として、大腿骨頸部骨折は2009年12月より、脳卒中は2010年7月より参加しています。

■ 地域連携パス対象患者数

	パス対象	パス対象外
大腿骨頸部骨折	0	26
脳卒中	0	276

■ リハビリテーション実施単位数

区分	2020	2021	2022	2023	2024
心大血管疾患リハビリテーション料(I)	12,433	12,359	10,989	10,345	11,037
脳血管疾患等リハビリテーション料(I)					
理学療法	13,266	11,685	11,869	11,224	12,502
作業療法	9,254	9,951	10,604	8,717	7,413
言語聴覚療法	5,071	4,565	4,880	3,695	4,409
小計	27,591	26,201	27,353	23,636	24,324
廃用症候群リハビリテーション料(I)					
理学療法	4,541	5,064	5,841	6,956	8,007
作業療法	2,429	2,521	2,615	2,170	1,798
言語聴覚療法	46	44	67	2	32
小計	7,016	7,629	8,523	9,128	9,837

運動器リハビリテーション料(I)					
理学療法	19,538	16,699	19,007	18,541	17,586
作業療法	4,640	4,622	4,887	4,148	4,057
小計	24,178	21,321	23,894	22,689	21,643
呼吸器リハビリテーション料(I)					
理学療法	3,540	4,236	4,113	4,175	5,734
作業療法	922	1,361	2,294	2,262	1,507
小計	4,462	5,597	6,407	6,437	7,241
がん患者リハビリテーション料	5,933	4,439	4,285	3,438	2,918
合計	81,613	77,546	81,451	75,673	77,000

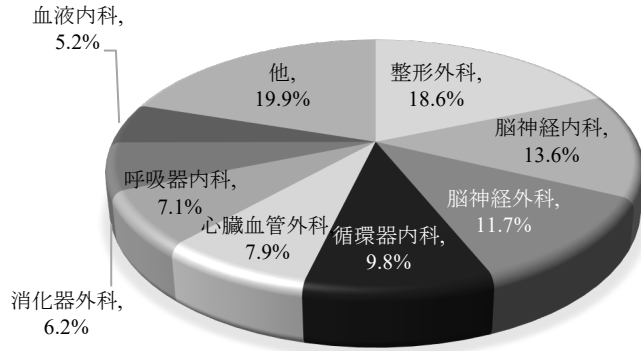
リハビリテーション総合計画評価料	572	369	343	309	332
急性期リハビリテーション加算					2,279
初期加算	36,255	35,631	36,298	37,406	37,791
早期リハビリテーション加算	54,623	49,852	55,166	54,605	54,913
退院時リハビリテーション指導料	1	257	274	62	65
摂食機能療法	2,995	2,860	3,613	3,192	3,449
消炎鎮痛等処置器具等(人)	54	121	29	54	65

■ 診療科別リハビリ依頼件数内訳

	2020	2021	2022	2023	2024
整形外科	874	857	891	930	870
脳神経外科	673	598	674	674	549
循環器内科	614	592	508	509	459
脳神経内科	397	384	545	570	634
心臓血管外科	316	330	342	340	371
呼吸器内科	203	273	319	297	333
消化器外科	201	264	280	284	289
血液内科	228	185	201	179	243
消化器内科	122	154	209	159	182
救急科	139	138	196	189	211
腎臓内科	89	88	77	61	84
呼吸器外科	87	92	71	78	88
総合診療科	79	51	55	66	58
泌尿器科	54	55	57	67	114
乳腺・内分泌外科	60	48	71	59	56
耳鼻咽喉科	42	60	48	51	52
新生児・小児	32	55	36	34	37
形成外科	35	32	30	23	26
感染症内科	—	80	67	0	1
糖尿病・内分泌内科	10	19	34	15	4
皮膚科	18	13	17	20	13
産婦人科	4	3	3	2	4
眼科	1	2	2	1	0
ペインクリニック内科	0	1	0	0	0
放射線科	0	1	0	0	0

歯科	0	0	0	1	0
合計	4,278	4,375	4,733	4,609	4,678

■ 依頼件数の内訳



5. 2025 年度目標

(1) 早期介入、高密度リハビリテーションによる回復加速

急性期リハビリテーションにおいて、①早期介入、②多頻度治療、③多単位治療、④多職種介入は治療効果を高めるうえで重要なポイントとされています。先進急性期病院においても、これらの傾向が加速され高水準のリハビリテーションが実施されています。当院は高度先進医療を提供する病院として、リハビリテーション分野においても高品質の医療を早期から提供することが求められています。当部では各診療科からのリハビリ処方に対して、即日リハビリ開始や休日リハビリ対象患者の拡大を目標に早期介入の取り組みを行っていきたくと考えています。

(2) 廃用症候群の予防

現在、高齢患者の増加や転倒転落予防により、廃用症候群に至ったリハビリ依頼患者が増加してきています。一般的に廃用性筋萎縮等の治療には、安静期間の約 1.5～2 倍の時間を要するため、廃用症候群は予防が最も重要であり、予防こそ最良の治療であるといわれています。今年度も急性期リハビリとして院内・院外が多職種や後方病院との連携強化により廃用予防リハビリに取り組むことで、早期機能回復を促していきます。

(3) 各疾患別専門リハビリチームの取り組み

各疾患別リハビリ担当者を中心として、専門分野別(運動器・脳血管・心大血管・呼吸器・がん・廃用症候群)リハビリに取り組んでいます。患者さんの ADL(日常生活動作)改善や QOL(生活の質)向上のため、各関係診療科等のカンファレンスや勉強会に積極的に関わっていきます。これからは各関係診療科の医師や看護師、他のメディカルスタッフ部門との連携を図り、総合的なリハビリの充実を促進していきます。

6. 学術関係

(1) 学会発表および講演

- 三瀬和人。脳卒中・循環器病患者に対する言語聴覚士の介入～失語症を含む高次脳機能障害、摂食嚥下障害を中心に～。令和 5 年度リハ職のための循環器病対策スキルアップ研修会。Web (2024.2.3)
- 中迫紀彦、曾我友啓、片岡政輝。愛媛脳卒中シームレス研究会 症例報告。愛媛脳卒中シームレス研究会第 34 会中予地区作業部会。松山 (2024.2.14)
- 三瀬和人。フレイルを予防しよう～元気の元はお口から～。松山市フレイル予防事業。松山 (2024.2.14)
- 三瀬和人。愛媛県における失語症者向け意思疎通支援事業の現状と課題。第 18 回四国言語聴覚学会 in えひめ。西条 (2024.3.3)
- 伊藤貴子、三瀬和人、山下かおり。多職種の連携が取れず必要栄養量を摂取できなかった一例。第 18 回四国言語聴覚学会 in えひめ。西条

(2024.3.4)

6. 天野貴裕、黒川絢帆、武智悠二、渡部里佳、濱田淳平、山本真吾、薬師神裕子、野本美佳、中村慶子。コロナ禍での小児糖尿病キャンプにおける理学療法士の取り組み～OODAループの活用によるデジタル化要素を導入したワークフローの構築～。第 28 回愛媛県理学療法士会学術集会。伊予 (2024.3.10)
7. 黒川絢帆、武智悠二、青木卓也、清水麻美、佐竹敬太、三瀬和人、天野貴裕。リハビリテーション室における地震初動対応力の向上を図った取り組み。第 28 回愛媛県理学療法士会学術集会。伊予 (2024.3.10)
8. 佐竹敬太。当院における手の外科領域に対するハンドセラピー。愛媛県立中央病院第 136 回医療連携懇話会。松山 (2024.5.8)
9. 木口大輔。教育原論・人間関係論。日本理学療法士協会令和 5 年度臨床実習指導者講習会。Web (2024.5.11)
10. 上甲早苗。書字動作獲得を目標としたことで手指の麻痺が改善した患者の一例。第 33 回四国作業療法学会。丸亀 (2024.6.8-9)
11. 木口大輔。造血細胞移植におけるリハビリテーションの役割。厚生労働省造血幹細胞移植医療体制整備事業令和 6 年度看護基礎研修II。松山 (2024.6.29)
12. 天野貴裕、武智悠二、黒川絢帆、濱田淳平、山本真吾、薬師神裕子、野本美佳、中村慶子。1 型糖尿病をもつ小児における治療デバイスと運動行動の関係。第 29 回日本小児・思春期糖尿病学会年次学術集会。福岡 (2024.7.15)
13. 井上瑞貴。能登半島地震における今治 DMAT 活動報告。令和 6 年度東予 MC 症例検討会。今治 (2024.7.20)
14. 三瀬和人。口腔機能の低下(オーラルフレイル)を予防しよう。愛媛県在宅介護研修センター令和 6 年度動画研修。Web (2024.8.1-7)
15. 三瀬和人。お口の健康について。松山市地域包括支援センター北条介護サービス事業者等研修会。松山 (2024.8.23)
16. 三瀬和人、伊藤貴子、山下かおり。消化器外科患者における嚥下障害の嚥下内視鏡検査による予後予測について。第 30 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会。福岡 (2024.8.30-31)
17. 三瀬和人。失語症概論。令和 6 年度愛媛県失語症者向け意思疎通支援者養成研修。Web (2024.9.14-2025.1.25)
18. 三瀬和人。コミュニケーション支援技法 I。令和 6 年度愛媛県失語症者向け意思疎通支援者養成研修。Web (2024.9.14-2025.1.25)
19. 三瀬和人。臨床実践(基礎)。日本言語聴覚士協会生涯学習プログラム基礎講座。Web (2024.10.6)
20. 佐竹敬太。「脳活」トレーニング。砥部町地域リハビリ活動支援課。砥部 (2024.10.16-11.6)
21. 三瀬和人、清水麻美、青木卓也、黒川絢帆、森川明。自治体病院のリハビリテーション部門における改善活動の現状と抱える課題～これまでの 12 年間の活動を振り返って～。第 62 回全国自治体病院学会 in 新潟。新潟 (2024.10.31-11.1)
22. 三瀬和人。認知症の人への食事支援のポイント。愛媛県在宅介護研修センター令和 6 年度動画研修。Web (2024.11.1-7)
23. 井上瑞貴。能登半島震災後の災害派遣における活動報告～理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の立場より～。愛媛十全医療学院同窓会公開講座。東温 (2024.11.2)
24. 三瀬和人。フレイル・サルコペニアとコミュニケーション機能。県立南宇和病院 2024 年度 NST 公開講座。愛南 (2024.11.5)
25. 青木卓也、藤田典道、飯本誠治。急性期頸髄損傷患者の摂取栄養量増加に向けた取り組み。第 59 回日本脊髄障害医学会。名護 (2024.11.7-8)
26. 藤田典道、青木卓也、飯本誠治。頸椎椎弓形成術後の頸椎症性脊髄症患者における下肢 Phase Angle と JOA スコア及び JOACMEQ との関連。第 59 回日本脊髄障害医学会。名護 (2024.11.7-8)
27. 黒川絢帆、武智悠二、青木卓也、清水麻美、佐竹敬太、三瀬和人、森川明、椿崇仁。リハビリスタッフの地震初動対応力(率)を向上する。第 25 回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 岐阜。岐阜 (2024.11.15-16)
28. 青木卓也、黒川絢帆、三瀬和人、佐竹敬太、清水麻美、武智悠二、藤田典道、木口大輔、森川明。頸髄損傷患者の摂取栄養量増加に向けた取り組み。第 60 回県立病院学会。松山 (2024.11.16)
29. 武智悠二、黒川絢帆、青木卓也、清水麻美、佐竹敬太、三瀬和人、森川明、椿崇仁。TQM サークル活動を利用したリハビリテーション室における地震初動対応率の向上。第 60 回県立病院学会。松山 (2024.11.16)
30. 井上瑞貴。ストレッチについて。まちなかサロン～筋力向上プログラム～。松山 (2024.11.19)
31. 青木卓也、平岡一志、大島埴生、河田秀平、嘉本みゆき、星野晋、清水麻美、黒川絢帆、木口大輔。理学療法教育に社会科学を取り入れる意義ー医療人類学者との共同研修の成果からー。第 52 回四国理学療法士学会。松山 (2024.11.23-24)
32. 木口大輔。協会指定管理者(初級)研修。愛媛県理学療法士会 2024 年度協会指定管理者研修会(初級・職種別)。Web (2024.12.8)

(2) 論文・著書

1. 三瀬和人。愛媛県における失語症者向け意思疎通支援事業の展開状況と見えてきた課題。言語聴覚研究 21(2)。99-106 (2024.6.15)